

「サーバーにアクセスできませんでした。」もしくは「サーバー/フォルダにアクセスできませんでした。」のメッセージが表示されデータの新規作成ができない場合は、以下の【確認 1】から【確認 4】を順番に確認してください。

【確認 1】データベースの起動の確認

【確認 2】ログインパスワードの確認

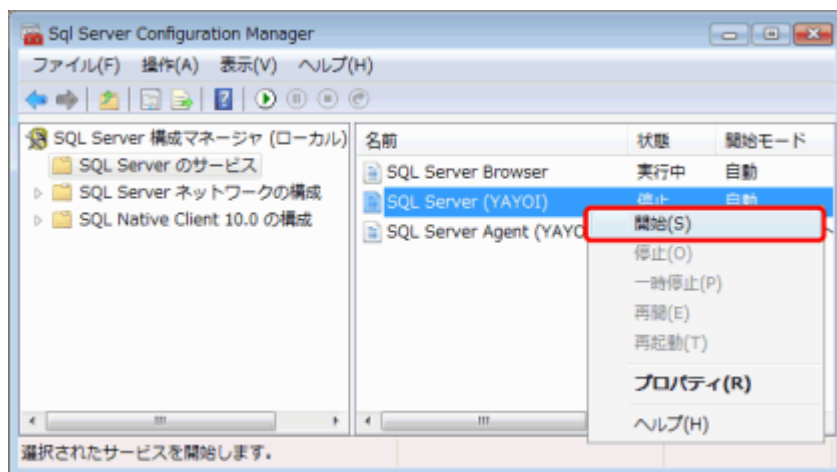
【確認 3】ファイアウォールの設定の確認

【確認 4】通信設定の確認

【確認 1】データベースの起動の確認

手順

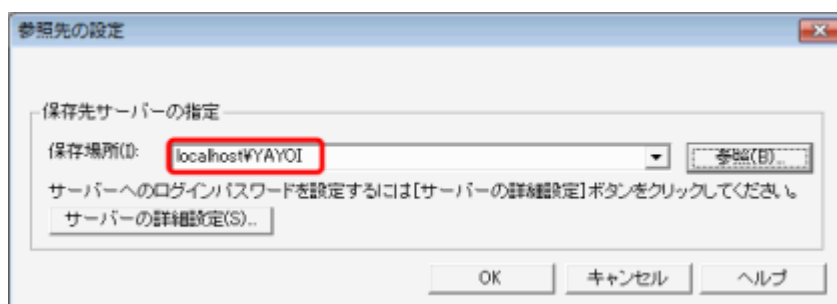
1. データベースがインストールされているサーバーコンピュータで Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]から[Microsoft SQL Server2008]-[構成ツール]-[SQL Server 構成マネージャ]をクリックします。
2. [SQL Server Configuration Manager]が表示されます。左側の「SQL Server のサービス」をクリックします。
3. 右側に表示された[SQL Server(YAYOI)]、[SQL Browser(YAYOI)]の状態を確認します。
[停止]と表示されている場合は手順 4 へ進みます。
※この画面で[実行中]と表示されている場合は、【確認 2】の手順をご参照ください。
4. [SQL Server(YAYOI)]、[SQL Server Browser]をそれぞれ右クリックし、[開始]を選択します。



【確認 2】ログインパスワードの確認

手順

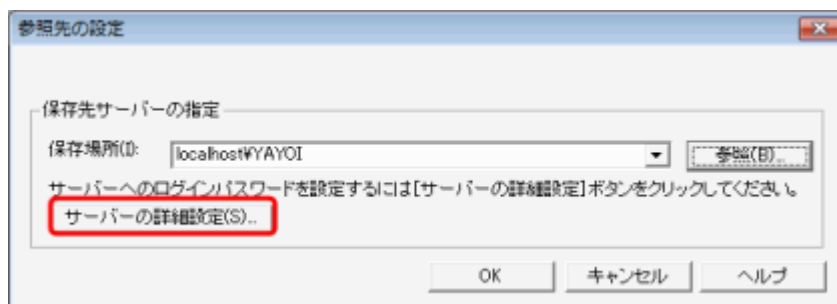
1. 『弥生製品』起動し、クイックナビゲータの[スタート]タブの[データの新規作成]をクリックします。画面の指示に従って[次へ]をクリックします。
2. [保存先サーバー]の設定画面で[参照先]ボタンをクリックします。
3. [保存場所]が「localhost¥YAYOI」になっていることを確認します。



別のコンピュータにインストールしたデータベースを参照する場合は、[参照]ボタンをクリックして表示されるサーバーを選択します。

サーバーが表示されない場合は[保存場所]へ「サーバー名¥YAYOI」を直接入力します。

4. [サーバーの詳細設定]をクリックします。



5. [サーバーにログインするユーザーを指定する]にチェックを付けて、[ユーザー名]に「sa」と入力します。

[パスワード]にはデータベースのインストール時に設定したパスワードを入力します。

サーバーの詳細設定

サーバーにログインするユーザーを指定する(S)

ユーザー名(U): sa

パスワード(P): *****

[ユーザー名]には sa、またはすでに設定されているユーザー名を入力してください。
[パスワード]にはデータベースのインストール時、またはすでに設定されているデータベースパスワードを入力してください。

バックアップ先共有フォルダを指定する(B)

フォルダの共有名(I):

OK キャンセル ヘルプ

【確認 3】ファイアウォールの設定の確認

データベース(以下『SQL Server』)への通信を許可するためには、サーバーコンピュータのファイアウォール機能で、『SQL Server』への通信に例外許可を与える必要があります。通信を許可するためには以下の2つのプログラムを指定する必要があります。

- ・「sqlservr.exe」
- ・「sqlbrowser.exe」

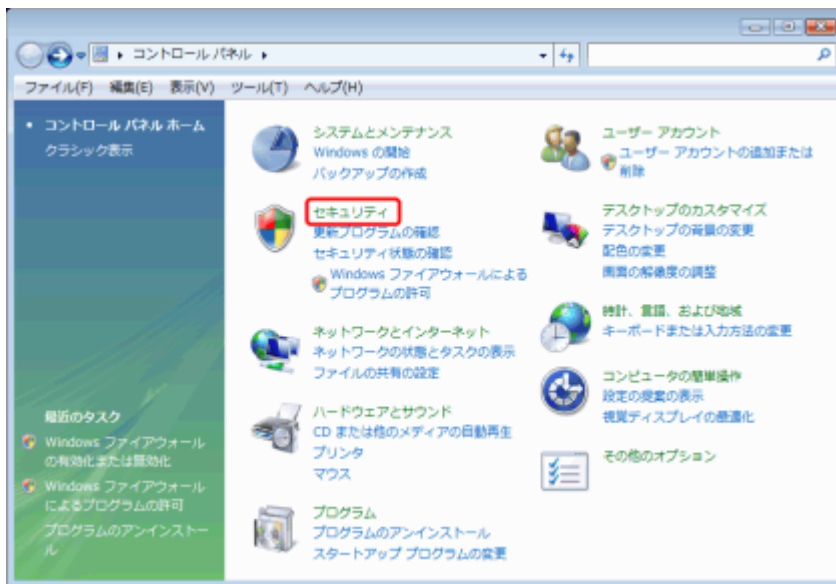
まず、この設定が必要かどうかを確認します。必要な場合は、これらのプログラムの場所を確認します。その後、ファイアウォールで通信許可の設定を行います。

- ※ 以下の操作は『SQL Server』をインストールしているコンピュータ(サーバー)で行います。
- ※ 市販のファイアウォール機能があるセキュリティソフトをインストールしている場合、Windows のファイアウォール機能以外に市販のセキュリティソフトでも、同様に『SQL Server』への通信を許可する設定が必要です。設定方法についてはセキュリティソフトの提供会社にご確認ください。

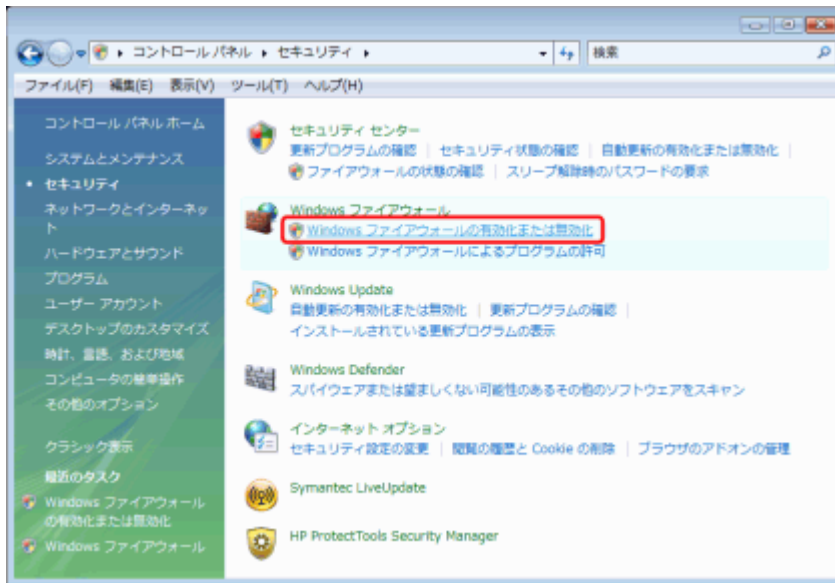
[Windows ファイアウォール]の設定の確認

手順

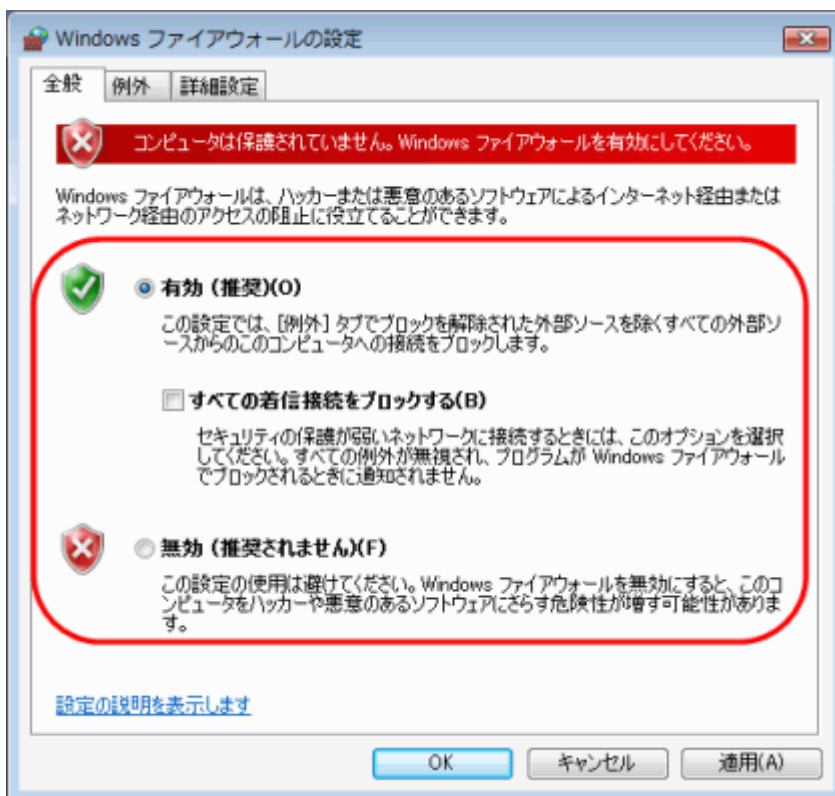
1. Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]—[セキュリティ]をクリックします。



2. [Windows ファイアウォールの有効化または無効化]をクリックします。
[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は[続行]ボタンをクリックします。



3. [Windows ファイアウォールの設定]の内容を確認します。



- (A) [有効]にチェックがあり[すべての着信接続をブロックする]にチェックがついている場合以下の[Windows ファイアウォール]の例外設定を行っても、設定は無効になり、『SQL Server』への接続が出来ません。
管理者に確認の上、[すべての着信接続をブロックする]のチェックを外してください。

(B) [Windows ファイアウォールを有効にする]にチェックがあり[すべての着信接続をブロックする]にチェックがついていない場合

以下の[Windows ファイアウォール]の例外設定を行います。

(C) [無効]にチェックがある場合

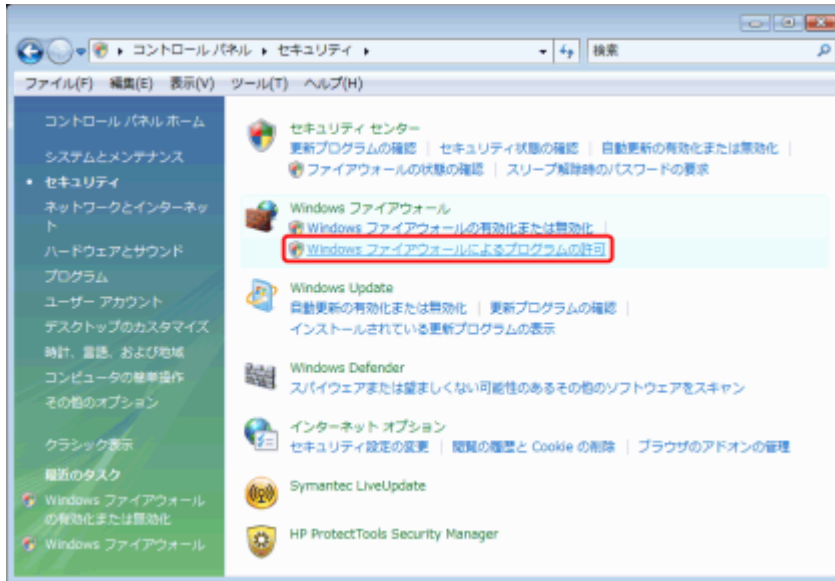
以下の[Windows ファイアウォール]の例外設定は必要ありません。

市販のセキュリティソフトをインストールしている場合は、セキュリティソフトで設定を行ってください。

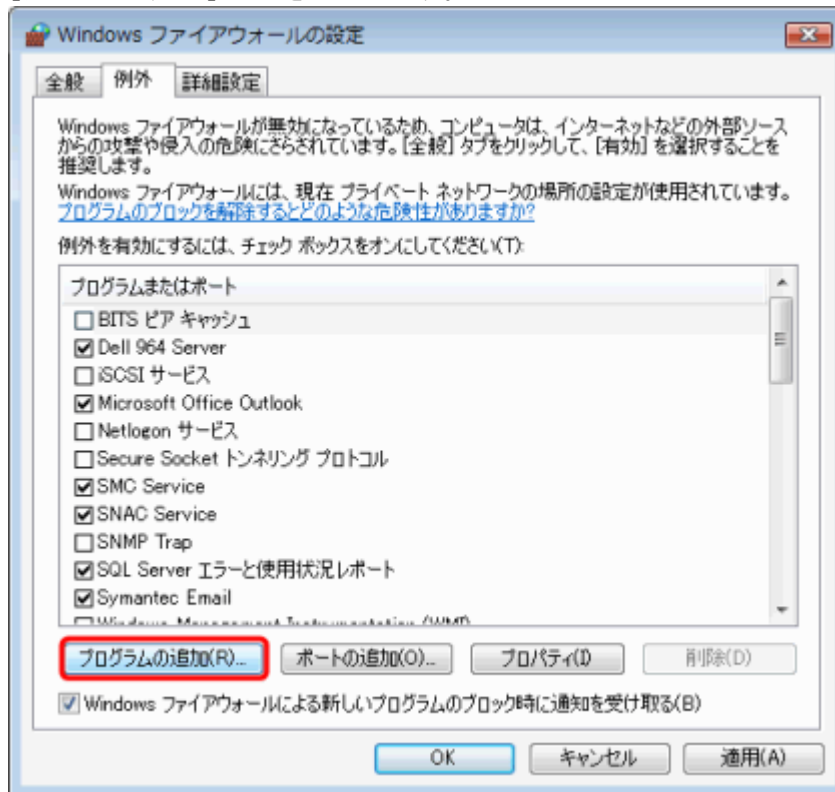
[Windows ファイアウォール]の例外設定

手順

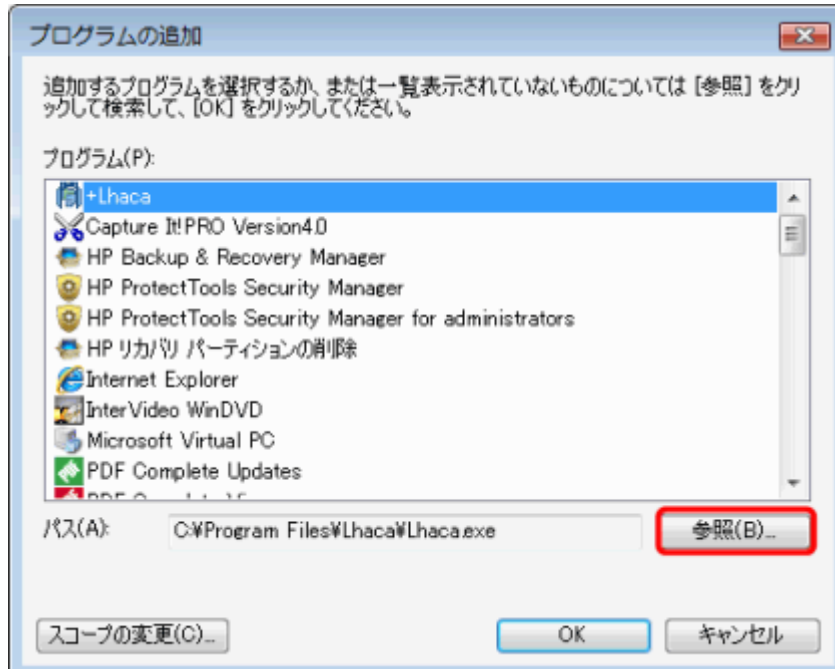
1. Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]—[セキュリティ]をクリックします。
2. [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]をクリックします。
[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は[続行]ボタンをクリックします。



3. [プログラムの追加] ボタンをクリックします。

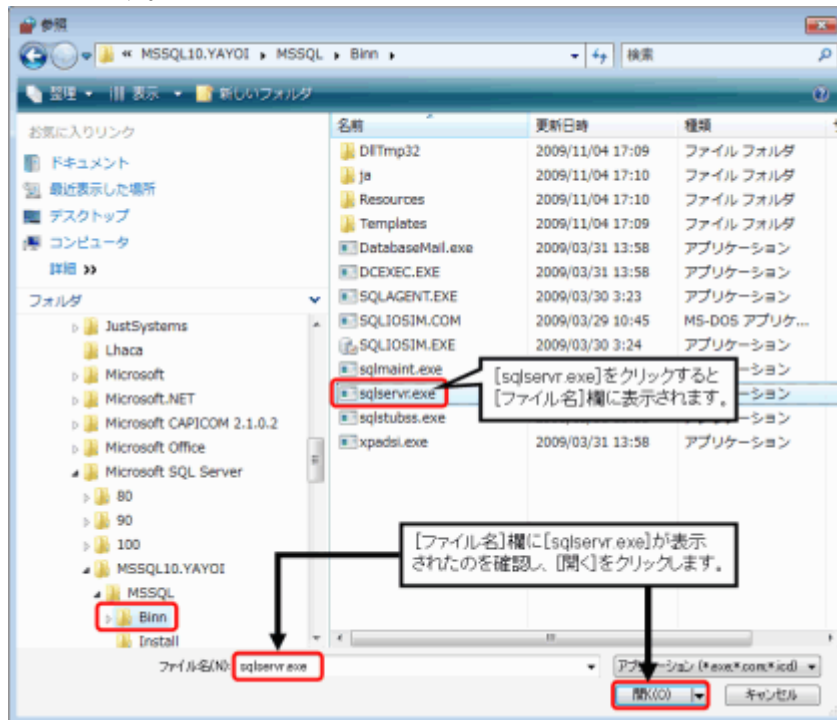


4. [プログラムの追加] 画面で[参照] ボタンをクリックします。

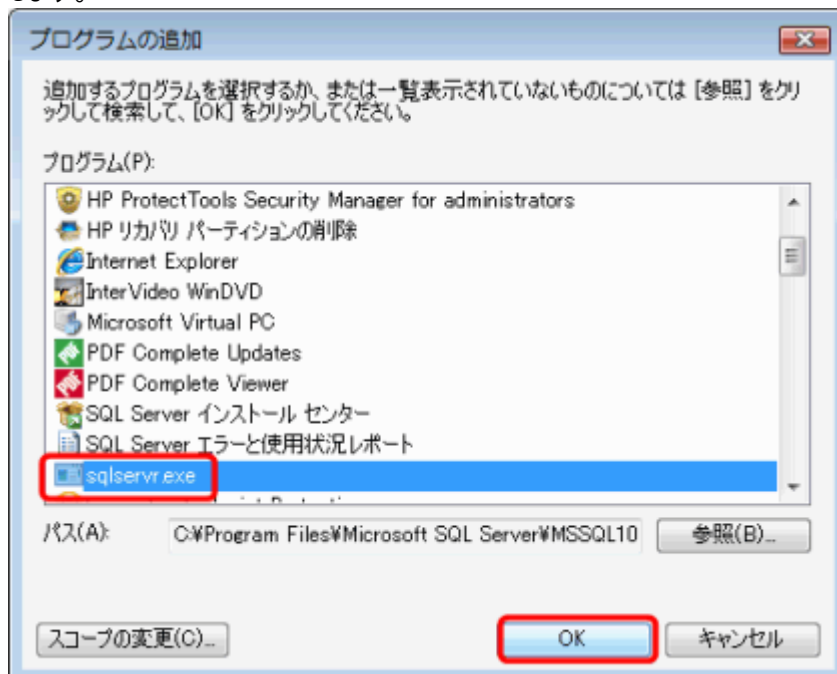


5. [sqlservr.exe]の場所を指定します。
「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.YAYOI\MSSQL\Binn\sqlservr.exe」です。

フォルダを順番に開いていくと[sqlservr.exe]が確認できます。[sqlservr.exe]を選択し[開く]をクリックします。

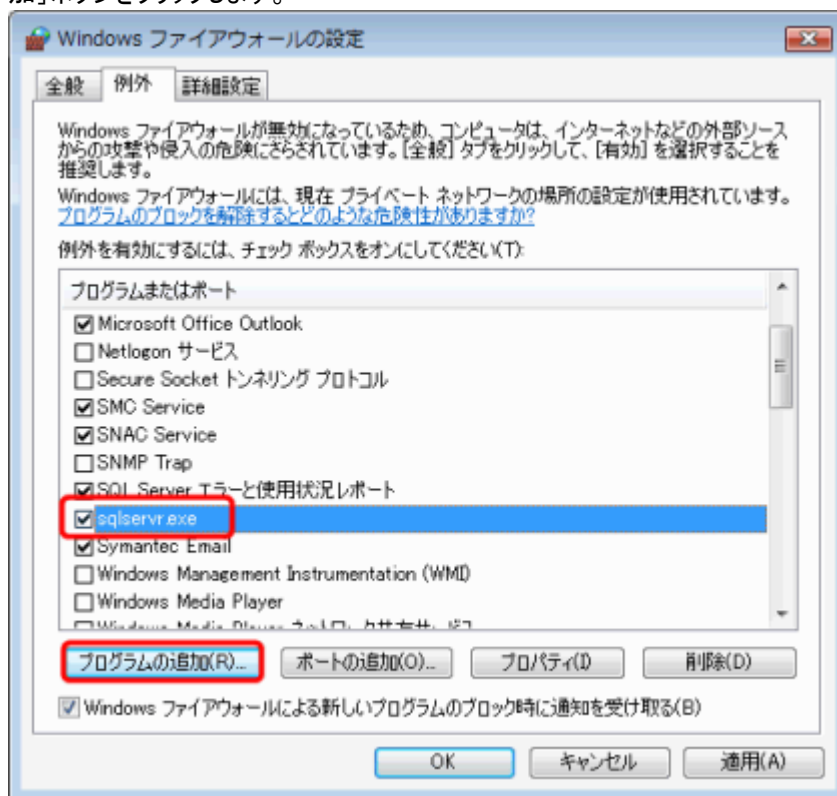


6. プログラムの一覧に「sqlservr.exe」が表示されます。「sqlservr.exe」を選択して、[OK]をクリックします。



7. [プログラムまたはポート]に「sqlservr.exe」が追加され、チェックがついていることを確認します。

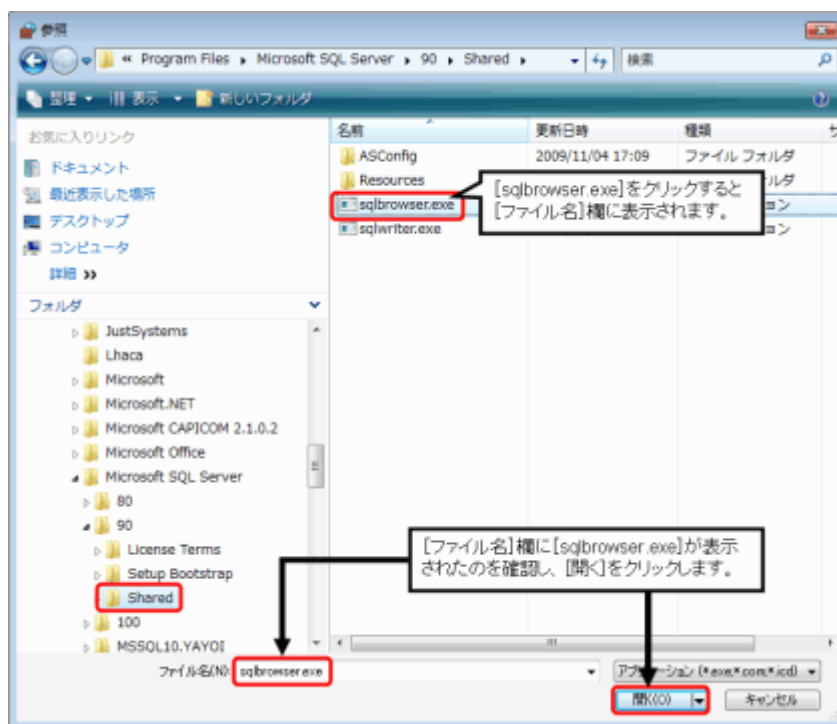
続いて 2 つめのプログラム [sqlbrowser.exe] の例外設定をします。同じ画面で [プログラムの追加] ボタンをクリックします。



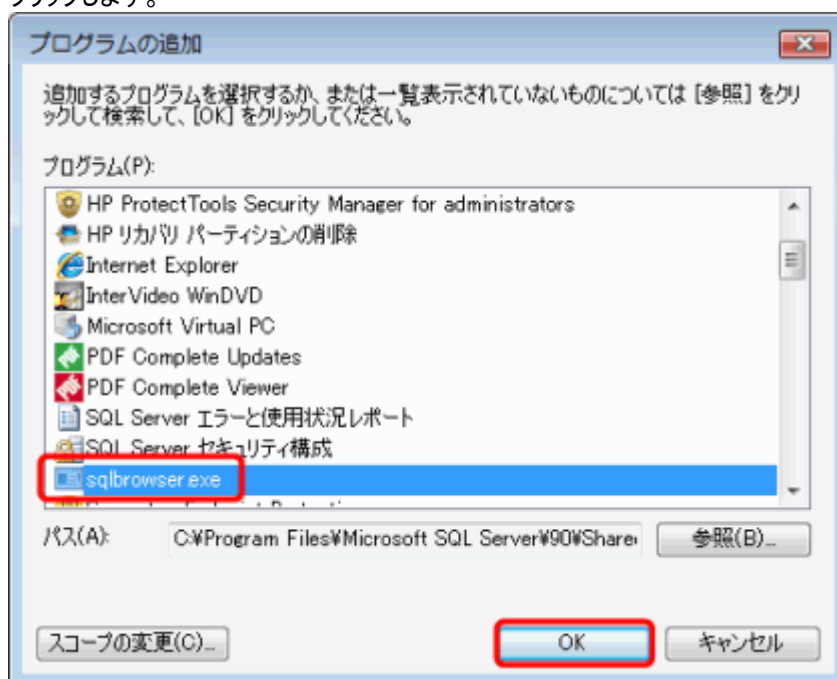
8. [プログラムの追加] 画面で [参照] ボタンをクリックします。

9. [sqlbrowser.exe] の場所を指定します。
初期値は「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe」です。

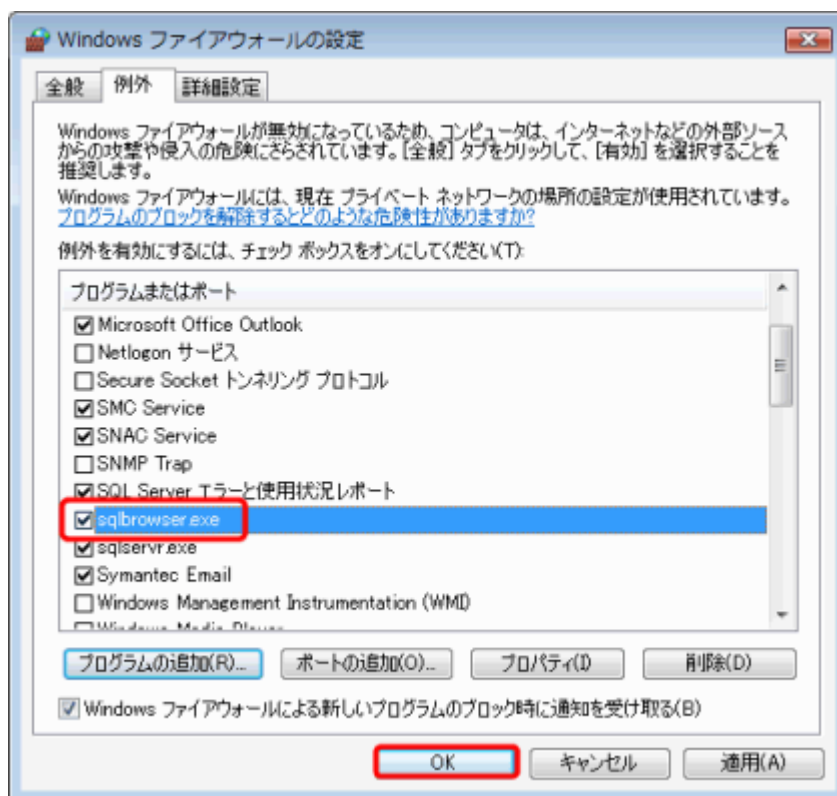
既に [C:\Program Files\Microsoft SQL Server] のフォルダが開いていますので、順番に開いていくと [sqlbrowser.exe] が確認できます。
[sqlbrowser.exe] を選択して、[開く] をクリックします。



10. プログラムの一覧に「sqlbrowser.exe」が表示されます。「sqlbrowser.exe」を選択して、[OK]をクリックします。



11. [プログラムまたはポート]に「sqlbrowser.exe」が追加され、チェックがついていることを確認して、[OK]をクリックします。

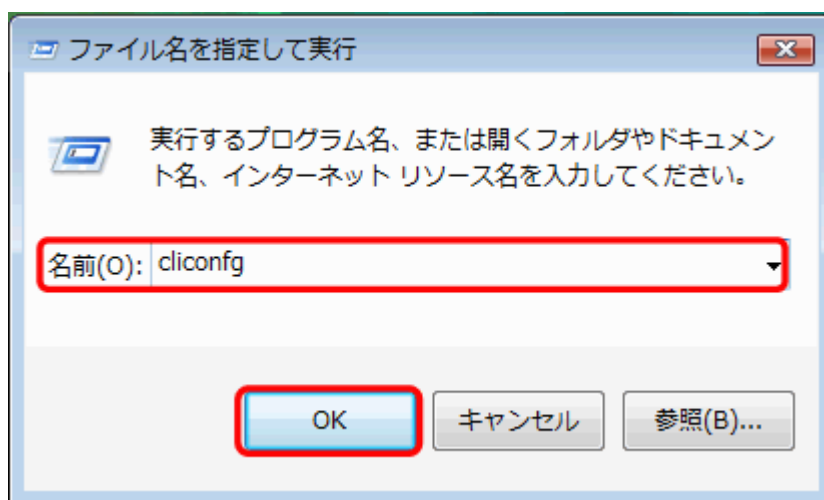


12. 設定が完了したら再度【確認 2】の手順を行ってください。

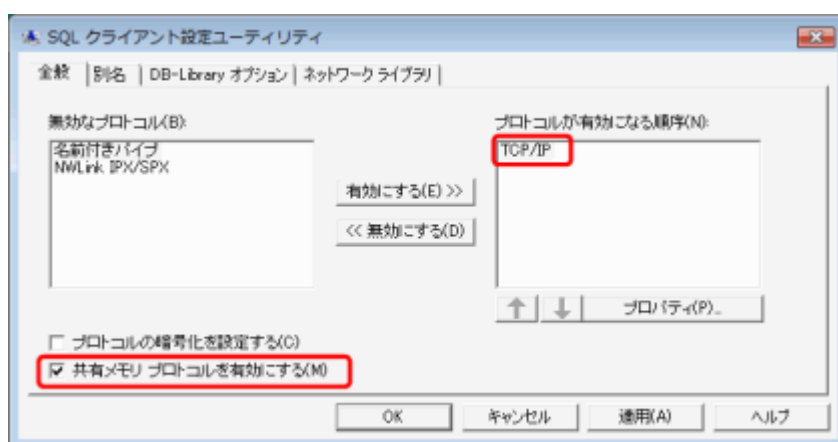
【確認 4】通信設定の確認

手順

1. Windows の[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]—[アクセサリ]—[ファイル名を指定して実行]を選択します。
2. 名前に「cliconfg」と入力し、[OK]をクリックします。
[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は、[続行]ボタンをクリックします。



3. [SQL クライアント設定ユーティリティ]が起動します。[全般]タブの[プロトコルが有効になる順序]の最上位に[TCP/IP]が表示され、[共有メモリ プロトコルを有効にする]にチェックが入っていることを確認します。

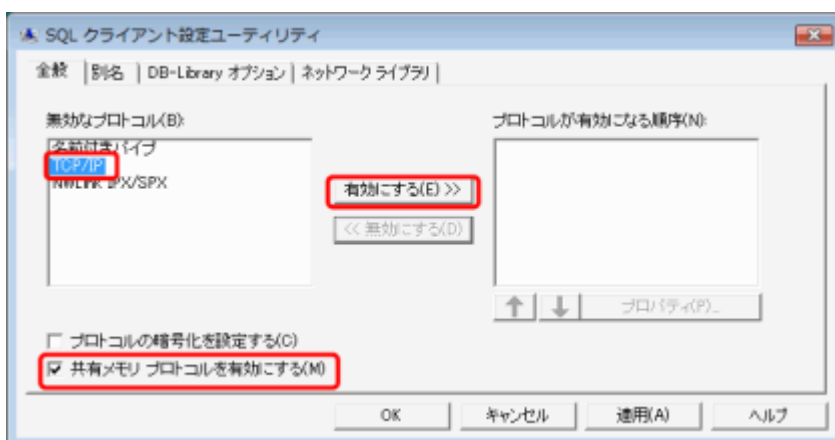


A: [プロトコルが有効になる順序]に[TCP/IP]が存在しない場合

[無効なプロトコル]に存在する[TCP/IP]を選択して、[有効にする]をクリックすると[プロトコルが有効になる順序]に移動します。

[共有メモリ プロトコルを有効にする]にチェックを入れます。

[適用]—[OK]で画面を閉じます。

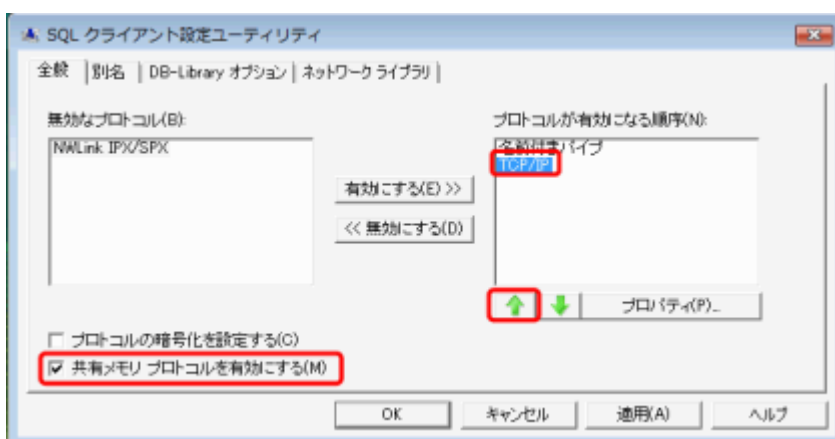


B: [プロトコルが有効になる順序]の最上位が[TCP/IP]でない場合

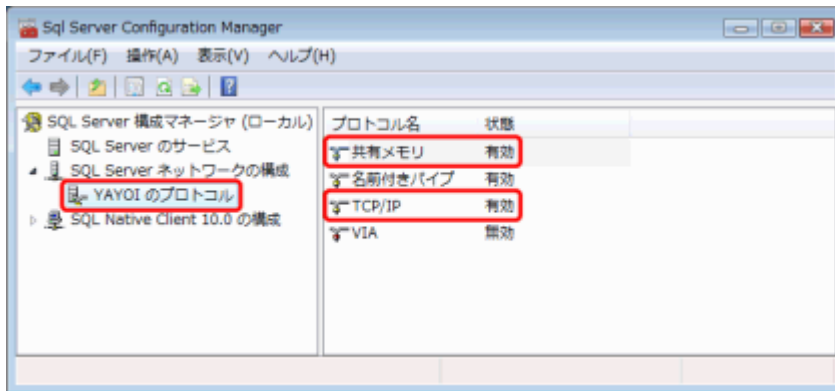
[プロトコルが有効になる順序]に存在する[TCP/IP]を選択して、[↑]で上位に移動させます。

[共有メモリ プロトコルを有効にする]にチェックを入れます。

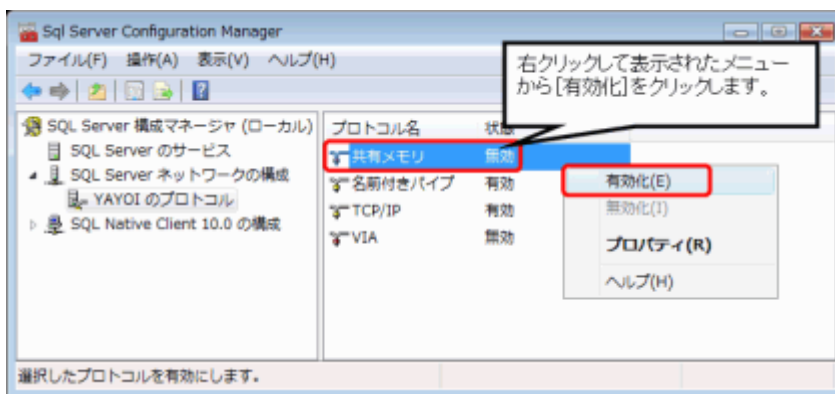
[適用]—[OK]で画面を閉じます。



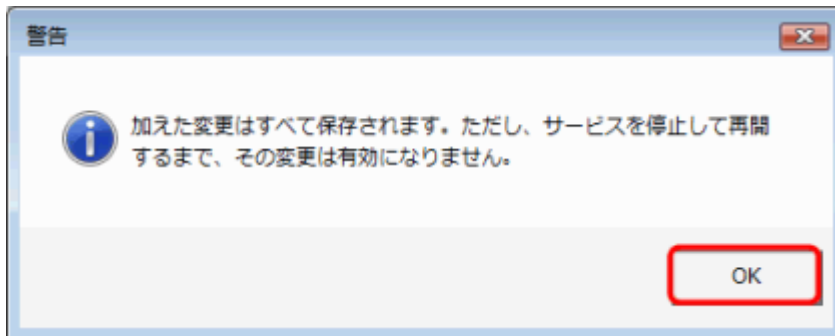
- Windows の[スタート]ボタンをクリックし[すべてのプログラム]から[Microsoft SQL Server 2008]—[構成ツール]—[SQL Server 構成マネージャ]をクリックします。
ユーザーアカウントの制御画面が表示される場合は、[続行]ボタンをクリックします。
- [SQL Server Configuration Manager]が表示されます。「SQL Server ネットワークの構成(または SQL Server 2005 ネットワークの構成)」をダブルクリックします。
- [YAYOI のプロトコル]をクリックし、右側に表示されている[共有メモリ]と[TCP/IP]の状態が「有効」かを確認します。
[有効]の場合は、このまま画面を閉じてください。



7. [無効]の場合は、右クリックして表示されたメニューから「有効化」を選択します。



8. [警告]メッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



9. コンピュータを再起動します。